

第57回夏季大学「新しい気象学2023」開講のお知らせ

教育と普及委員会

主催：(公社) 日本気象学会 教育と普及委員会

協賛：(公社) 日本気象学会 計算科学研究連絡会

後援 (予定)：気象庁, 日本地学教育学会, (一財) 気象業務支援センター, (一社) 日本気象予報士会

日本気象学会教育と普及委員会は、最新の気象学の知識の普及を目的として、学生・大学院生、小・中・高等学校の教諭、気象予報士及び気象に興味を持っている一般の方々を対象に、毎年夏休みの時期にやや専門性の高い講座である「夏季大学」を開講しています。

今回の夏季大学のテーマは「新しい気象学2023」です。近年、AI技術の利用や最先端のスーパーコンピュータを用いた超高解像度シミュレーションが様々な分野で急速に増加しています。気象学においても例外ではなく、これまでにない革新的な研究が行われています。また、台風や豪雨を制御する技術開発も行われ、気象学は大きな転機を迎えています。現代の天気予報のさらなる精度向上や気候変動の課題解決において、このような技術が果たす役割や応用可能性について、8名の専門家による講義を企画しました。気象学におけるAI技術やシミュレーション技術の最新動向や将来の展望に触れ、新たな知見を身につける機会となれば幸いです。皆さまの積極的な参加をお待ちしております。

○日程、講義題目、講師

2023年8月5日(土) 10:00~15:15, 6日(日) 10:00~16:00

「大気科学におけるAIの利用方法」

関山 剛 (気象研究所)

「最先端のスーパーコンピュータを用いた天気予報研究」

大塚成徳 (理化学研究所)

「都市の建物と樹冠を解像した微気象シミュレーション技術の開発と社会実装」

松田景吾 (海洋研究開発機構)

「深層学習を利用したリアルタイム微気象予測への

挑戦」

安田勇輝 (東京工業大学)

「海から季節の不順を予測する～季節予測の最前線～」

土井威志 (海洋研究開発機構)

「Today's Earth による全球から市町村規模までの洪水予測」

芳村 圭 (東京大学生産技術研究所)

「より速く、より多く、より長く、より複雑に一気象・気候予測を支えるコンピュータとの共同作業」

八代 尚 (国立環境研究所)

「台風制御に向けて：ムーンショットでの取り組み」

森 信人 (京都大学防災研究所)

※講義題目は変更となる可能性があります。

※講師の選出において性別に偏りがないよう努めましたが、テーマに即した話題提供ができる候補を挙げたところ、結果的に男性のみとなりました。

○講義会場

今回の講義はオンライン開催とします。講義の日時等詳細については、「教育と普及委員会」夏季大学ウェブサイト (https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/summer_school) で公開しています。

○募集対象人数

200名

○受講料

2,000円 (消費税含む)

○講義資料

事前に講義レジュメを共有しますので、受講される方は取得をお願いします。また、オンライン開催後に、講義資料を参加者限定で共有し、講義レジュメを「教育と普及委員会」のウェブサイトに掲載する予定です。同サイトには、過去の資料も公開されていますので、ご覧ください。

○お問い合わせ先

E-mail : msj-ed_2023@metsoc.or.jp